



学会ニュース

2012年 第2・3合併号

甲南大学経済学会

目次

後期講演会

社会見学

インナーゼミナール大会

柘植先生在外研究報告会

後期講演会

講演者 石川直樹さん

プロフィール

1977年東京都生まれ。写真家。2000年、poletopoleプロジェクトに参加し、北極から南極を人力踏破、2001年、七大陸最高峰登頂達成。人類学、民俗学をテーマにした作品を発表し続けている。

講演内容

大学4年間という時間は自分の興味・関心のある事に時間を充てる貴重な時間でもあります。先行きが不透明な中、一步踏み出して体験することや直接肌で感じることは今後において大きな経験になります。この講演会を通して、これからの大学生活で一步踏み出すことの大切さを改めて考える良い機会になりました。

社会見学

今年は関西国際空港、造幣局に見学に行きました。関西空港では一般の方が入れないような場所に入れていただき、貴重な体験をすることができました。造幣局では通貨を作っているラインを見学しました。

感想

2012年11月21日(水)甲南大学経済学会主催の社会見学に参加しました。今回は、関西を代表する都市、大阪での公共施設の見学ということで、大阪府泉佐野市にある「関西国際空港」と大阪府大阪市北区にある「造幣局本局」の2か所を訪れました。

関西国際空港は1994年9月4日に開港し、日本の空港で初めて、旅客・貨物の両方の24時間運用を可能にした空港である。今回は、保安区域の見学をすることができ、普段私たちが見ることができない貨物の運搬場や普段私たちが、機内で食べる食事の運搬場、また飛行機の燃料を蓄えているタンク、さらに管制塔もバス内から見学することができました。また、実際にバスから降りて、真下で飛行機を見ることができ、意外と知らない飛行機の豆知識を知ることができました。

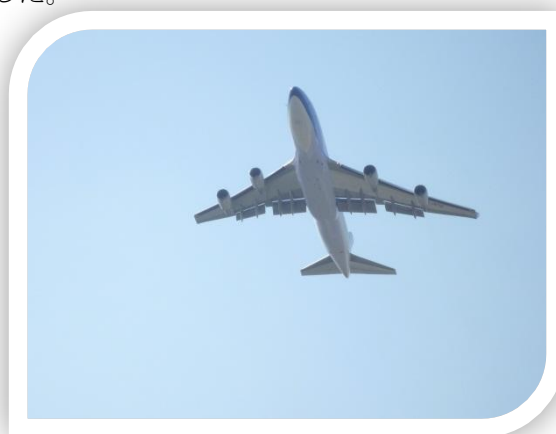
昼食場所は関西国際空港横にあるホテル日航関西国際空港レストランザ・ブラスリーでビュッフェ形式のランチを食べました。料理はもちろんのこと、デザートも充実しており、とても美味しく、そして楽しく食事を楽しみました。

続いて、造幣局本局では、お金ができるまでのしくみや、実は造幣局では紙幣は生産していないなどの意外な情報をビデオや、担当の方から見聞きしました。

さて、工場内の見学では、500円硬貨の生産ラインを見学しました。オートメーション化が進み。ほとんど工場内で作業しておられる方がいらっしやらなかったのが印象的です。

また、併設する資料館では、普段歴史の教科書でしかみることのできない和同開珎や小判なども見ることができ、とても貴重な見学をできたと思いました。

今回の社会見学において、普段何気なく使用している、空港やお金だが、その裏側ではたくさんの人あるいは時間がかかっているのだと思いました。また、大学でなかなか学ぶことができないことをたくさん学んだような気がしました。



インナーゼミナール大会

2012年12月1日に、第42回経済学部インナーゼミナール大会が開催されました。インナーゼミナール大会とは経済学部生がゼミナールで研究した成果を発表する場であり、今回は総勢26チームが参加しました。各教室のグランプリは以下のようになりました。

811 教室

	ゼミ名	チーム名	発表タイトル
午前	永廣ゼミⅡ	Bienestar	生活保護をどうするか？ - 「公平性を重視した制度設計について」 -
午後	高ゼミⅡ	高点	日本のエレクトロニクス産業の展望

812 教室

	ゼミ名	チーム名	発表タイトル
午前	林ゼミⅢ	IKENAKA	NO スマホ NO LIFE?
午後	岡田ゼミⅡ	岡ドウ♡DATE	神戸デート

813 教室

	ゼミ名	チーム名	発表タイトル
午前	後藤ゼミⅡ	後藤ゼミ 6 期生	生まれた月によって人生に差が出るのか？ ～職業・年齢別の分析～
午後	寺尾ゼミⅢ	寺尾ゼミナール 第 10 期生 藤井 藤子	日本農業のゆくえ

824 教室

	ゼミ名	チーム名	発表タイトル
午前	中島ゼミⅡ	財務報表分析班	その企業、大丈夫？
午後	永廣ゼミⅡ	TAXMEN	消費税増税問題



柘植先生在外報告

「環境と観光の経済学」



感想

アメリカでの在外研究報告や、約1年間生活されていたシカゴでの話をお聞きして、日本とアメリカでは移動手段や観光地、宿泊施設での滞在時間に違いがあることや観光地として有名ではなく、あまり知られていない所を活性化する方法、観光地化による弊害など、観光経済について様々なことをお聞きできとても勉強になりました。

世界遺産等に登録され観光地として有名になることは、現地経済の活性化につながるものの、多くの人を訪れることにより環境破壊や生態系の変化等の様々な問題も起こっているため、今後観光地として活性化していくうえで環境問題の配慮していくことが大切だと思いました。